

稲田の子

元気いっぱい稲田の子 学習のまとめもがんばるぞ!

校長 棚澤 実

2学期の登校日が残り少なくなり、学習のまとめが最終盤となりました。各学級学年では、子どもたちの手によるお楽しみ会やクリスマス会の企画・運営なども進められ、教室からはみんなと一緒に楽しく過ごしている子どもたちの声が聞こえてきます。

さて2学期終了を前に、冬休み中も計画されている『家庭学習』や『宿題』について考えてみます。

学校では、学年の段階に応じて、学習の意欲付け、習慣づけるために日常的に工夫して子どもたちに課題を与えています。今回の保護者アンケートの中でもお尋ねしていますが、この学習意欲や学習習慣は学力の定着と向上を図るための大きなポイントとなります。学校ではそのためによくわかる授業、意欲をもてる授業づくりに努めているところです。

『エビングハウスの忘却曲線』という学説によりますと、人間は学習してから20分後には内容の60%程度しか憶えていない、翌日には30%も憶えていない、つまり70%は忘れてしまうということで、「忘れる」ということは脳の構造上仕方がないことなのです。そこで重要になるのは家庭学習や宿題になるわけです。いかに頭に記憶に残しておくかは、毎日の反復学習がいかに重要であるということです。

間もなく長い冬休みに入ります。どんな冬休みをご計画されているのでしょうか。ぜひ、お子さんへお声かけいただくとともに、ご家族一緒に冬休み中の計画について考えられることを願っております。



スケートリンク造成が急ピッチで進められています。今週から、市内小学校のスケートリンク造成・維持を一手に引き受ける『北海道道路整備』さんにより、大型車でのリンク「雪ふみ」作業が始まりました(写真)。これから夜を徹した作業が進められます。大変ありがたいことです。完成が待ち遠しいところです。

おもてなし(作法・マナー)教室から

職員玄関に定期的にお花を生けてくださっている松岡さんとの縁で、ふれあい美術館の第2弾『MOA美術館児童作品展入賞作品移動展』が実現し、本日16日で終了しました。たくさんの方のご来館ありがとうございました。

この間、MOAのみなさんと本校の事務補である田村さんを講師に、6年生を対象とした茶道のたしなみを体験する学習も行われました。



ふれあい美術館に畳を持ち込んで和のしつらえの雰囲気をつくりあげ、やわらかな空気の中、おもてなしの心や作法、マナー等について体験的に学び合いました。入れたてのほろ苦いお抹茶と和菓子を、正座して味わう体験は、子ども達の心に強く残るものとなりました。

ご協力に感謝いたします。

プログラム10の取組が
全道に発信されました

本校の特色ある学校づくりの一環として取り組んできた『体力向上の取組』は、足かけ四年目を迎え、少しずつ、着実に取組が充実してきています。
過日、教育情報新聞『北海道通信』（全道版）に本校の取組が紹介されましたのでご紹介いたします。

帯広市稲田小「プログラム10」



10秒ダッシュや10秒なわとびなど「10」にちなんだ競技を用意した

【帯広発】帯広市立稲田小学校（湖澤実校長）は十月下旬から十一月月上旬にかけての十日間、道教委が推奨する「子ども元気アップ強調月間」に併せて、「プログラム10（ten month）」に取り組んだ。「おびひろっ子絆支援事業（体力）」の一環として実施。児童たちは、十秒なわとびや十秒ダッシュなど、用意された十種目に参加し、活発に体を動かした。
同プログラムは、同校の西山乙代教諭が「児童たちに日常的な運動習慣を定着させたい」と

運動習慣定着へ10種目

発案したもの。道教委が推奨する「子ども元気アップ強調月間」に併せて、「プログラム10（ten）」の名称で実施。①十秒なわとび②十秒全力走③十秒ダッシュ④十秒ワニ歩き⑤十秒おぼろおぼろ十歩ジャンプ⑥十歩西足ジャンプ⑦十秒腕立て静止⑧十秒腹筋⑨十秒両肩まわし⑩十種目を用意した。
プログラムに取り組むに当たって、同校の二年目以内の初任者教諭が種目を実践しながらやり方を説明するDVDを作成し、昼の時間に流すなどして、全校児童に周知した。
参加は自由とし、挑戦した種目は事前に配布している「プログラムカード」に印を付け、参加した児童ややり終えた児童には参加証や修了証を手渡しした。
プログラムを終了後に同校が調査した集計結果によると、参加した児童の割合は、約八〇％にのぼった。
西山教諭はプログラムの実施によって、「普段あまり運動しない児童も自発的に取り組む姿がみられた」と成果を説明した上で、「今後は参加する児童が増えるようプログラム内容を工夫改善するとともに、体幹を鍛えられるような種目も取り入れていきたい」と抱負を述べていた。

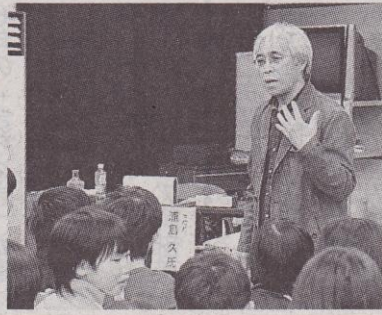
楽しみながら体力向上



プログラムを発案した西山教諭。DVDや認定証を作成したことで8割の児童が取組に参加した

おびひろっ子絆を育む学校づくり支援事業の取組の一環で、外部講師を招いての道徳授業の第2弾は、ジョイイングリッシュアカデミーの学院長である浦島 久氏をお招きして、4年生を対象に行われました。浦島氏は、英語の指導のみならず、写真家として、またカーリング選手としても大変ご活躍されています。
授業では、自らの生きざま、その時々々の夢や思いなどをスライドで説明しながら、①好きなことを見つけ、人に負けないものをつくること ②自分にしかできないことを持つこと ③どんな時も夢を持ち、夢を語り、今の人生を楽しむことの大切さなど、子どもたちの心をしっかりとつかみながら学習が展開されました。

ジョイ浦島さん「夢持ち続けて」稲田小で特別授業
帯広稲田小学校（湖澤実校長、児童591人）で11月30日、4年生88人を対象に、ジョイ・イングリッシュアカデミー（帯広）の浦島久学院長を講師に招き、「おもしろい人生を歩むた



4年生の児童と、浦島学院長が将来の夢や仕事について話し合った特別授業

めのヒント」をテーマとした特別授業が行われた。自分の良さを伸ばす意識と、夢や未来に希望を持つ心情を高め、次年度からの外国語活動への関心や意欲を持つってもらうのが狙い。前半は道徳の授業として、将来の仕事や趣味の楽しさややりがい、夢や希望について、浦島さんと児童たちが考えた。浦島さんは面白く人生を生きるために「いくつかの好きなことを見つけ、自分にしかできないことがあり、どんなときでも夢を持ち続けることが大切」と話した。
後半は日本語と英語の発音の違いなどについて、児童たちが浦島さんから英語の基礎を学んだ。
（長尾悦郎通信員）



生き方に学ぶ～4年絆事業 道徳&外国語

学校アンケートお待ちしております。
今週初めてお子さんを通じて封筒でお配りいたしました、学校改善に向けた『保護者アンケート』。ご記入頂けましたでしょうか。保護者のみなさん一人一人の声や思いが学校運営を進める貴重な資料となります。ぜひお声をお聞かせください。
（20日〈火〉まで。児童玄関内アンケートボックスまで）